

令和 8 年度 奈良県食育推進会議 会議の概要

日 時：令和 8 年 7 月 3 0 日（木）14:00～15:40

場 所：リガーレ春日野 1 階天平の間

出 席 者：上地委員、植村委員、合田委員、佐井委員、富岡委員、中川委員、西村委員、細見委員（8 名）

岡本委員、小田委員、桐間委員、白樫委員、七浦委員、山下知事欠席

議 題

（1）第 4 期奈良県食育推進計画の推進について

- ① 指標の進捗状況と未設定分について（追加分）
- ② 令和 7 年度及び令和 8 年度 食育の取り組み状況について
- ③ その他

概 要

- 医療政策局 通山局長より挨拶
- 上地委員を議長として指名
- 議事要旨（以下のとおり）

会議成立の確認

<事務局>

本会議の委員は 13 名であり、本日は 8 名の出席となりますので、奈良県食育推進会議条例第 5 条第 2 項の要件を満たしており、本会議は成立していることをご報告させていただきます。

（1）第 4 期奈良県食育推進計画の推進について

① 指標の進捗状況と未設定分について（追加分）

<事務局説明>

（資料 1-1）第 4 期奈良県食育推進計画の評価指標の進捗状況の報告。

（資料 1-2）第 4 期食育推進計画の策定時に目標値が決定できていない指標をご審議いただきたい。

<上地議長>

目標値を設定するものとして、35 番「災害時の非常用食料等を備蓄している人の割合」について、事務局よりご提案がありました。何かご意見等ございますでしょうか。ご質問でも結構です。

<細見委員>

調査の結果、奈良県の現状値が 34.5%ということでしたが、昨今の地震等災害が多いことを踏まえて、過去の値から年々増加傾向にあるのでしょうか。意識の高まりから増加傾向にあるなど現状について教えていただきたいです。

<事務局：健康推進課 倉本>

ご質問ありがとうございます。奈良県では、これまで単独調査で非常用備蓄等について県民の意識が確認したのは、令和 7 年度からであり、今回初めて現状値を把握したところです。ご参考までに、配付資料の右上に、当初本計画で参考としておりました、令和元年国民健康・栄養調査の結果があります。近畿Ⅱ（奈良県、和歌山県、滋賀県）の値が 36.5%になっており、全国では 53.8%となっております。

<上地議長>

非常用食料等を備蓄している人の割合は、上がっていないようにもとれますね。今調査をすると変わるかもしれませんが、やはり奈良県では低い方なのかなと想像しています。兵庫県の災害研修を受けたこともあります、非常に意識が高いと感じます。今後ますます災害に対する備えは必要と思いますので、ぜひ取り組んでいただけたらと思います。皆様におかれましてもご協力いただけることがありましたら、よろしくお願いします。他にございますか。

<富岡委員>

目標値としては基本的にはこれで良いと思っています。ただ、奈良県の調査では、質問文に「何日分」や「世帯人数」という言葉があるので、比較的アバウトな質問文の全国調査よりも、低い値になりやすいと思います。また、令和 7 年度全国値を目指すということですが、現状よりも防災意識や備蓄など浸透していくと思うので、評価年の全国値には奈良県の目標値は届かないのではと思います。

<上地議長>

ありがとうございます。聞き方によって答えやすさの違いから値が変わるということですね。同じ設問でないと経年的に評価することが難しくなりますので、今後も同様でしょうか。

<事務局：健康推進課 木村>

はい。同様です。

<上地議長>

ありがとうございます。他にご意見等なければ、事務局の案をご承認いただいてよろしいでしょうか。

（承認される）

② 令和 7 年度及び令和 8 年度 食育の取り組み状況について

<事務局説明>

（資料 2-1 を用いて説明）

<上地議長>

事務局のご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

また委員の所属の取り組みについて、不足等ございましたら追加でご説明ください。

<合田委員>

奈良県食生活改善推進員連絡協議会の合田です。

昨年度から大きく変わる取組等はないですが、引き続き、幅広い世代へ向けた食育の活動を進めて参りたいと思っております。

<上地議長>

ありがとうございました。その他ご意見補足等ございますでしょうか。できれば各委員にご意見等頂戴できればと思っております。

<西村委員>

JA ならけん（奈良県農業協同組合）の西村です。こちらも昨年度から大きく変わりはありませんが、引き続き県産野菜や農畜産物の PR 活動等、取り組んでいきたいと思えます。

<細見委員>

市民生活協同組合ならコープの細見です。ならコープでは、毎年 10～11 月にかけて組合員の集いを企画しております。毎年異なるテーマを設定しており、昨年度は防災、今年度は食育としており、その中でも朝食について取り組む予定です。食育といいますと、子どものイメージが強いように感じますが、子どもだけではなく大人の食育が大事だと考えております。昨年度の会議でも、職場の健康診断の後に食育の意識を高める取組のお話があったかと思えます。その話から、ならコープでも子どもだけにスポットをあてるのではなく、大人や高齢の方へも食育は大事だと進めていこうと思っております。

<上地議長>

ありがとうございます。ぜひ来年度の資料にその取組内容を記載いただきたいです。

<中川委員>

奈良こども食堂ネットワークの中川です。こちらも令和 7 年度に引き続き記載させていただいておりますが、広く周知啓発をするというところで、こども食堂を利用される方には、若い年代のお母さんも多いですので、ホームページの充実に関し特に力を入れていきたいと思っております。また、こども食堂を利用したい人だけでなく、応援したい、ボランティアに参加したいという方もおられますので、うまくこども食堂側とつなぐことができるよう、ホームページの更新を検討しております。

<上地議長>

各小学校の地域に 1 つはこども食堂があるというのが、国の方針かと思えますが、奈良県では昨年度と比較して少し増加しているのでしょうか。

<中川委員>

206 カ所に増えておりますので、アクセスのしやすさでは、一定程度の向上は見られるかと思えます。小学校区ごとのこども食堂設置率では全国 4 位程度であり、増加していると思

います。数字ですので、学校の統合等もあるかとは思いますが。

<上地議長>

ありがとうございます。全国的にも社会の関心がずいぶん高まったようにも思います、新聞やテレビ等でもよく取り上げられていますね。地域の多様な主体が参画する交流会とありますが、多様な主体とはどのような団体でしょうか。

<中川委員>

かなりいろんな団体がこども食堂に興味を持ってお問い合わせくださる印象があります。

<上地議長>

私も栄養士として、いろんな保育園等で給食指導に携わることがあります。その目線でお話しますと、食を手伝ってくださるということは非常にありがたいことなのですが、調理を担当される人によって衛生に対する意識が様々だなと感じます。特に、今年は酷暑が続いておりますので食中毒の危険性が高いとも思っております。こども食堂の食品衛生に対する意識というのは、現状どうでしょうか。

<中川委員>

様々には感じます。このこども食堂ネットワークでは総会を開催しており、改めて衛生管理を意識してもらうよう、定期的に確認する機会として設けております。

<上地議長>

総会の出席者は、その団体の長でしょうか。

<中川委員>

長には限りませんが、その団体の代表者としてどなたかが参加されています。

<上地議長>

ありがとうございます。衛生に対する意識は伝達が難しく感じております。参加される方の主観でニュアンスが分かれることもあるかと思えます。今後としては、調理担当者にも参加いただきたいですね。食品衛生の担当課で衛生管理に関する研修会があれば、皆さんに意識をもって作っていただければと思います。こども食堂の活動だけでなく家庭にも反映され活かすことができますので、ご検討いただければと思います。

<佐井委員>

全国健康保険協会奈良支部の佐井です。令和 7 年度の取組実績に職場まるごと健康宣言事業所数の増加がありますが、これが食育とどう関係しているのかについて補足させていただきます。奈良支部には 2 万 1 千社ほどの加入事業所様があり、そのうち令和 7 年度末で 1784 社、直近では約 1900 社が健康宣言していただいている状況です。宣言事業所は、事業所単位で事業所の課題から健康づくりを進めるための年間目標を設定します。その取組の中に「食生活の見直し」があります。取組例としては、食堂や弁当に低カロリーのヘルシーメニューを増やすことや高血圧予防や減塩に関する情報発信等です。食育の内容を含んでいるというところで事業所数を記載しています。令和 7 年度に健康宣言をされた 431 社のうち食生活の見直しを選択している事業所は 2 割程度あり、少なからず職場の食育が広がっ

ているのではと期待しております。次に、令和 8 年度の実施では食事習慣の改善に向けたコラムを Web 広報に追加しました。協会けんぽで問診の結果データを分析したところ、食生活に関する項目では、人と比べて食べる速度が速いと感じている者の割合や間食頻度が毎日と回答している者の割合が全国平均と比較して高い状況が続いています。NDB データにおいても同様の結果を確認し、奈良県との共通課題と認識しておりますのでポピュレーションアプローチということで進めていきたいと考えております。

<上地議員>

ありがとうございます。食生活を選択される事業所が 2 割程度ということでしたが、令和 8 年であれば、令和 8 年に食生活を選択された事業所であり、違う年には食生活以外を選ばれることもあるのでしょうか。

<佐井委員>

あります。

<上地議員>

それでは年間の結果をみてさらに次年度は PDCA を回すように目標をたてて実施いただいているのですね。少しずつ事業所が目標を変えてもらえたら、宣言されている事業所の全てで食生活の見直しに取りくんでもらうことが可能ですね。

<佐井委員>

期待をしております。人と比べて食べる速度が速いと感じている者の割合については、問診に答えた方の主観にはなりますが、現状値が高いですので、県内広報等を利用し、少しでも全国平均へ近づける、減少させるように取り組みたいと思います。

<植村委員>

奈良県学校給食会の植村です。本会は、学校給食を通して食育の支援を行い、子どもたちの心身の健全な発達に寄与することを目的としています。先日、栄養教諭等を対象とした研修会があり、その中で、兵庫県で食育を推進している講師から、食育は単なる栄養指導にとどまるものではなく、国語、社会、理科、数学など様々な教科の題材として活用でき、各教科の学習目標の達成にもつながるという話を伺いました。また、その講師からは「食は大切であり、食は楽しいものである」という考え方とともに、最終的には子どもたちが自らの食生活を適切に管理できる力を身に付けることが重要であるという話もありました。このことから、食育を推進することが、子どもたちの健康だけでなく、安全・安心、ひいては命を守ることにともなうと考えています。また、奈良県教育委員会では来年の 1 月 22 日に昨年から取り組んでいる「奈良県学校給食カレーの日」が実施されます。それぞれの特産品を使い、特徴あるカレーを作る内容であり、本会では地場産物の使用に当たって一定の補助をする予定です。

<事務局各担当課説明>

(資料 2-2 を用いて説明)

<富岡委員>

提供資料「NDB オープンデータの特健健診質問票を利用した全国平均と奈良県との比較」について説明

<上地議員>

いまお話いただいた内容等について、保健所で実施するやさしおベジ増しプロジェクトの取組に反映できるかと思いますので、保健所へ提供いただくことは可能でしょうか。

<富岡委員>

可能です。

<細見委員>

奈良県民の早食いが全国より多いということが分かりましたがなぜでしょうか。

<富岡委員>

その要因を見つけないと奈良県の早食いの割合を改善していくことは難しいと思っております。男女ともに全国よりも高くなる要因があるとは思われます。奈良県で早食いの割合が高い要因を探る調査が必要です。また、奈良県では、胃がんのリスクが高い状況です。奈良県の食品摂取量として値があるのは野菜と食塩であり、胃がんのリスク要因となる食塩については、全国比較で摂取量が低い群にあり減少傾向にあります。奈良県の伝統食・郷土料理を含めた食習慣が関係しているかもしれませんが、既存データでは把握しきれませんので、今後調査していければと思っています。奈良県で調査を実施される際には奈良医大も全面的に協力します。

<上地議長>

県関係課、委員の関係団体において、多種多様な取組を実施いただいていることがよく分かりました。これらの取組の積み重ねが奈良県全体の食育の推進にとって、大きな原動力となっていると思いますので、今後もよろしくお願いします。

<事務局：木村課長>

貴重なご意見等ありがとうございます。いただきましたご意見を参考に引き続き、食育推進計画につきまして取組の検討を行ってまいりたいと思います。

<事務局>

(参考資料1および2を用いて事務局より説明)

<上地議長>

食環境整備は、年齢、性別、経済状況、健康への関心度などによらず、誰もが自然に健康になれる食環境づくり、体制づくりが非常に重要になってくるかと思っています。環境整備にあたって大変かと思いますが、引き続き頑張ってくださいと思います。

<事務局>

事務局より事務連絡を行い会議終了。